

やまがた山水百景魅力アップ事業費

事業評価個票（事業実施：平成30年度）					部局名	環境エネルギー部		
短期アクションプラン	テーマ	テーマ6 再生可能エネルギーによる産業振興と地域活性化、国内外に誇れる優れた環境資産の保全・創造・活用						
	施策	施策2 国内外に誇れる優れた環境資産の保全・創造・活用						
	目的	県土の7割を占める豊かな森林資源や湧水等の水資源など、県民にとって貴重な財産である自然環境を守りながら、地域の産業や暮らしに活かし、次世代につないでいく。						
	目標指標(R2)	自然公園利用者数	14,000千人					
	策定時の実績	11,255千人(H27)	現状	11,300千人(H28)	主要事業	豊かな環境を守り、活かす自然共生社会の構築		
事業名	やまがた山水百景魅力アップ事業費	担当課・担当	みどり自然課 自然公園担当 水大気環境課 水環境担当					
事業開始年度	平成30年度	事業終了(予定)年度	未定					
事業の目的 (目指す姿を3行程度で簡潔に)	本県の山岳資源の魅力向上を推進するとともに、地域の人々に育まれてきた優れた湧水を「里の名水・やまがた百選」として選定して紹介することにより、自然環境保全や理解促進、観光資源としての活用、地域づくりを推進していく。							
事業概要 (5行程度で簡潔に)	1 山岳資源の魅力向上 「やまがた百名山」をはじめとする本県山岳の魅力の積極的な発信、登山客の多い登山道の木歩道の整備など受入体制整備の推進、「やまがた山体験」を通じた地域づくりの推進 2 名水の選定と地域活性化への活用 「里の名水・やまがた百選」の選定、パンフレットの作成、水質フォローアップ調査、アドバイザーによる観光資源としての磨き上げ							
実施方法	■直接実施 ■委託・請負 ■補助 □負担 □交付 □貸付 □その他 上記実施方法とする理由：多くの人に本県山岳の魅力を体験してもらい、自ら情報を発信することを促すための事業を効果的に実施するため。							
予算額・決算額 (単位:千円)	費目(予算見積書のグループ名)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	山岳資源の魅力向上に向けた多様な活用	11,635	4,039					
	受入態勢の充実	4,655	6,589					
	やまがた山体験地域づくり促進事業		2,000					
	「里の名水・やまがた百選」の選定	2,224	2,219					
	パンフレットの作成	2,003	1,571					
	水質フォローアップ調査	674	533					
	アドバイザー派遣	237	235					
計	21,428	17,186	0	0	0			
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金	1,150	1,088					
	繰入金		1,445					
	その他特定財源		2,000					
	一般財源	20,278	12,653					
	計	21,428	17,186	0	0	0		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	「やまがた百名山マップ」の作成	活動実績	部	—	23,600			
		当初見込み	部	—	5,000	—	—	—
	「里の名水・山形百選」の新規選定箇所数	活動実績	箇所	10	11			
当初見込み		箇所	10	10	10	10	10	
成果指標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標 (所管部局の分析)	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
	「山岳観光地の観光者数(山形県観光者数調査)」やまがた百名山マップを作成・各所への配置や配布により、県内外での本県山岳の周知拡大を図り、山岳観光者数の増加につなげる。 (H28年度山岳観光地観光者数：916千人)	成果実績	千人	813	集計中			
		目標値	千人	940	958	979	1,000	1,021
		達成度	%	86.5				
関連事業								

事業目標の考え方(事業目標設定時)

全国的に、登山・トレッキングがレジャーの一角に定着している中であって、本県には、気軽にトレッキングが楽しめる山岳から本格的な登山者を魅了する山岳まで、各地に自然を満喫できる貴重な山岳資源があり、観光資源としても高いポテンシャルを有しているが、最近では日本アルプスなどブランド力のある山岳に人気が集まる傾向にあり、他県の山岳観光地域と比べて本県山岳地の全国的な知名度は高いとは言えない。また、県内の地域の人々に育まれてきた優れた湧水についても、地域活性化の資源はもとより、観光資源としての価値を高めていくことが必要。

本事業では、本県山岳や湧水の魅力をさらに磨き上げ、その魅力を積極的に発信し、県内外における本県山岳や湧水のブランド化を進めていくことで、本県山岳や湧水が観光資源として活用されることにつながることから、積極的に取り組むべき事業である。

目標値は、現時点で把握できる本県山岳に関する唯一の調査である「山岳観光地の観光者数」について、これまでのトレンドに積極的な情報発信による観光者数の増を加味して目標値を設定した。

事業所管部局による評価・検証

	項目	評価	評価に関する説明
事業目標の妥当性・達成度	事業の目的は県民や社会のニーズを的確に反映しているか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 登山やトレッキングなど山に親しむ人が増えている中、本県の豊かな山岳資源を積極的に発信するとともに、登山環境の整備など受入態勢整備に取り組むことは、山岳観光の振興や県民の健康づくりに資するなど、社会ニーズを的確に反映し、優先度が高い事業である。 「里の名水」を選定し観光資源として磨き上げることも、本県の豊かな環境を守り活かす自然共生社会の構築の観点から重要であり、優先度が高い事業である。 ニーズに応じた情報発信の強化により、山岳情報サイト「やまがた山」へのアクセス数がサイト運営開始時(H27年度)と比較して約11倍(年間619,461件)となるなどの顕著な成果が得られた。 「やまがた百名山」環境保全活動への助成により、新たに多くの地域団体の取組があったほか、山岳の木歩道整備は利用者の利用の安全につながっている。
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。	A	
	目標水準は妥当か。	A	
	期待する成果が得られたか。	A	
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	A	
事業内容の妥当性	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	A	<ul style="list-style-type: none"> 当部は山岳資源や名水の情報発信、受入態勢整備、観光部局は誘客事業と適切な役割分担を行っている。 登山道の受入体制整備については、県が自ら管理者となり実施するもののほか、地域の有志団体等が実施する里山等(やまがた百名山)の登山環境整備(刈払い、簡易看板設置等)への支援を通して地域づくりを推進している。また、「やまがた山体験」を通じた地域づくり推進についても、寒河江市及び地元山岳会、NPO団体等で構成する団体が実施する事業を支援するなど、支出先の選定や受益者との負担関係の設定など、適切な事業内容としている。
	支出先の選定は妥当か。	A	
	受益者との負担関係は妥当であるか。	A	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	A	
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	A	
	類似の事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。	A	
役割分担の妥当性	市町村、民間等に委ねることができない事業なのか。	A	県が事業者として直接実施すべき事業以外は、市町村、民間等に委ねているが、取組みを促進するため、必要に応じて支援・助成を行っている。
今後改善の点課題	<ul style="list-style-type: none"> 本県の山岳資源や湧水を観光資源として広く県内外に知らしめるため、引き続き、積極的な情報発信に取り組んでいく。特に、本県山岳資源については、全国的な山岳イベントの誘致などを通して、一層の知名度向上に努めていきたいと考えている。 		

- ・事業所管部局による評価にあたっては、以下の4つの選択肢から、1つを選ぶこと。
- A: 目標を上回って達成する見込み。期待通りの成果(100%以上)。妥当。
- B: 目標を概ね達成する見込み。概ね期待通りの成果(80~99%)。概ね妥当。
- C: 改善の余地あり。期待した成果を下回っている(79%以下)。
- ー: 該当しない